

中高層建築物に対する 消防力の整備・強化を！

(自民クラブ)

問

市中心部では、まちづくり交付金を活用した基盤整備事業が進められ、JR伊予西条駅周辺や市道・街路などの整備により、地域住民の生活の質の向上、地域経済・社会の活性化が図られている。

特に、このエリアには、中高層マンションが林立し、市民の生活空間としてのにぎわいが創出されている。中高層建築物の建設が進む中、これに対する消防力の整備について問う

答

市内にある3階以上の高層建築物の状況は、平成



中高層建築物が建ち並ぶ市中心部

20年5月末時点で、東消防署管内612棟・西消防署管内339棟の計951棟となっている。これらの消防車両の進入路や、屈折はしご付消防ポンプ自動車の架てい状況については、すべて調査を完了している。

屈折はしご付消防ポンプ自動車の整備状況としては、東消防署に25メートル級1台、西消防署に16メートル級1台の計2台を配備している。

また、中高層建築物火災を想定した屋内消火栓や連結送水管設備などを使用した火災防御訓練は、平成18年に94件、19年には62件実施し、人命救助訓練も平成18年に180回、19年に163回とそれぞれ実施している。

中高層建築物が増加する中、市民の生命及び財産を守る消防の責務を全うするためにも、高層建築物の災害に対応できる、はしご車の更新・整備が急務であると考えている。

新市建設計画主要事業 の取り組みを問う

(リベラル西条)

問

合併後の都市基盤整備は、JR伊予西条駅周辺・東



J R 壬生川駅前

予運動公園屋内体育施設・新図書館建設など大型事業の整備に着手し、着実な進展をみている。

今後、新市の融和と一体性の確保に資する事業は、地域バランスを考慮して検討しなければならぬ。JR壬生川駅周辺整備事業及び東部公園整備事業の取り組みについて問う。

答

JR壬生川駅周辺整備に際しては、駅前広場の施設等も老朽化しており、人にやさしいまちづくりを目指してバリアフリーにも配慮した再整備が必要であると考えている。駅東地区と駅西地区を、歩行者や自転車に乗降できるようなバリアフリーエレベーター及び階段

などの自由通路で結ぶことにより、東西の一体化を図るとともに、駅西地区には新たに駅前広場の整備や道路整備計画を立てている。

東部公園整備事業は、合併後の新市建設計画・西条市総合計画、また、現在策定している西条市都市計画マスタープランにおいても、総合公園として位置付けられている。東部地域には、総合公園がないことから、従前より地元の要望も強く、整備の必要性はじゅうぶん認識している。今後、市内の公園整備の状況や社会情勢、財政状況などを考慮しつつ、検討していきたい。

武徳殿の安全策と 今後のあり方を問う

(無党派)

問

平成13年の武徳殿使用休止後、7年が経過した。2年前の本会議では「歴史的視点からその存在意義があるかどうか研究するとともに、関係者と協議し、また、図書館の移転・新築と合わせて検討していく」との答弁があった。

建物は、柵やロープなどで囲うこともなく、安全策が講じら

れていないのが現状である。事故が起これば遅いので、早急に手を打つ必要がある。武徳殿のあり方についての検討状況と安全策について問う。

答

平成18年6月定例会で、スポーツ振興というよりも、歴史的建造物の視点で議論となった。その際に、「歴史的視点から存続に意義があるか否か検討するとともに、隣接する図書館の跡地利用を踏まえた一体的な検討を行っていくことが必要ではないか」と答弁した。

現在策定中の西条市中心市街地活性化基本計画の中で、図書館の跡地利用については、地域交流施設としての利用が位置付けられようとしている。今日的には、このような状況を踏まえ、今後、武徳殿のあり方を検討しながら、施設の安全面にもじゅうぶん配慮していきたい。



使用休止中の武徳殿